

第6次竹原市総合計画「基本構想」策定のための意見募集（パブリックコメント）の実施結果について

総合計画は、まちづくりを進めるうえでの指針となるものであり、目指す将来像の実現に向けた目標や必要な方策を定めています。

現行の第5次竹原市総合計画は、平成21年度から平成30年度までの10年間の基本構想と、5年ごとの基本計画（前期・後期）により構成されています。

この第5次竹原市総合計画の計画期間の終了を迎えることから、これまでの取組の検証結果や本市を取り巻く状況に対応したまちづくりの指針となる平成31年度から平成40年度までの新たな総合計画（＝第6次竹原市総合計画）の策定作業を進めており、新たな総合計画の基本構想の素案について、市民等の意見を求めるため、意見募集（パブリックコメント）を行いました。

実施期間	平成30年9月29日（土）～平成30年10月31日（水） 33日間	
意見を提出できる人	市内に住所を有する人、市内に存する事務所又は事業所に勤務する人、市内に事務所又は事業所を有する個人及び法人並びにその他の団体、市内に存する学校に在学する人、その他利害関係のある人	
閲覧場所	市役所企画政策課、忠海支所、荘野出張所、吉名出張所、市ホームページ	
周知方法	市ホームページ、広報たけはら	
意見提出状況	6名（意見数23件）	
	項目	意見数
	基本構想全般に関すること	4件
	まちづくりの基本理念に関すること	1件
	10年後の将来都市像に関すること	2件
	重点テーマに関すること	1件
	将来像・目標像に関すること	3件
	将来の人口見通しに関すること	2件
	具体的な施策に関すること	8件
その他	2件	
意見への対応	意見の趣旨により基本構想に反映するもの	0件
	意見の趣旨が既に基本構想に盛り込まれるなど、基本構想の修正を伴わないもの又は基本計画や今後の取組にあたって参考とするもの	23件

項目	番号	意見の概要	市の考え
基本構想全般に関すること	1	これから具体的数値目標が公表されると思うが、基本構想は「理想論」に基づいた計画との印象が強い。	具体的数値目標は、基本計画において施策分野ごとに設定します。
	2	「2 総合計画の策定方針 (2) 数値目標の設定」としているため、基本構想に数値目標を明記し、その是非を問うべきである。	
	3	前計画の総括が示されていない。前計画で達成されたもの、未達成のもの、失敗したものの検証が必要である。可能性があるものは継続する必要がある。	第5次竹原市総合計画後期基本計画の検証結果については、本総合計画の巻末資料として掲載することを検討しています。
	4	近隣他市の総合計画は、どれも似通った内容である。 竹原市は小さくコンパクトに纏まった暮らしやすい街であるが、特に大きな産業はなく、雇用を一機に拡大し人口を増やす事は不可能である。量より質で勝負するなど、何かに特化する必要がある。それが基本構想には全く見られない。	基本構想では、本市の目指すべき姿の1つとして「将来像1 自然・歴史・文化に生まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち【個性】」を掲げ、自然・歴史・文化や観光、コンパクトな市街地など、本市の大切な地域資源を個性として活かして、多くの人々を魅了し、賑わいを生み出し続けるまちを目指すこととしています。
まちづくりの基本理念に関すること	5	「個性的」のキーワードは、とても良い。「暮らしやすい」「住みよい」の感じ方には、個人差があり、理念としてはぼやけた印象を受ける。「個性的」を前面に出すべきである。	
10年後の将来都市像に関すること	6	「世界に誇れる 市民遺産が満載！きんさい！シニヤングタウン竹原。」 元気で若い感性を持つシニア世代とその感覚を受け継ぐ親・子世代との共生。市内にある誇れる文化遺産・人・モノを未来に残していきたいという思いで発想した。	基本構想では、本市がこれまでも取り組んできた「住みやすさ」、 「暮らしやすさ」に磨きをかけ、さらに向上させることにより、基本理念で掲げるまちづくりを推進したいと考えており、将来都市像についてはこうした考え方などに基づいて設定することとしています。 いただいたご意見については、将来都市像の設定にあたって参考にさせていただきます。
	7	案の1～3 全てにおいて「暮らし」「誇り」が採用されているが、「暮らし」の言葉から連想される具体的なイメージが明確に感じられない。「“個性”と“活気”があふれる街(あなたの)【理想の暮らし】(又は【住み良さ】若しくは【心地よさ】)が実現する！たけはら」はどうか。	
重点テーマに関すること	8	災害復旧については、理念より具体的行動である。	平成30年7月豪雨では、7月3日から8日にかけて総雨量554mmという、年間平均雨量1200mmの本市が経験したことのない豪雨で、4名の尊い命が失われ、住家やライフライン、道路等の社会基盤などに甚大な被害をもたらしました。 将来都市像の実現のためには、この災害からの早期復旧・復興が不可欠であるため、基本構想において重点テーマとして設定しました。 災害からの早期復旧・復興に向けた具体的な取組やロードマップについては、基本計画などでお示しします。

項目	番号	意見の概要	市の考え
将来像・目標像に関する事	9	<p>『将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活力と優しさがあふれるまち【活力】』のなかで、『互いの人権が尊重され、市民などが支えあって生きる社会を創るとともに・・・』と書かれているが、この趣旨に沿って、竹原市役所の各組織が活動されているのか、または、これから活動しようとしているのか、非常に疑問である。</p> <p>竹原市を、消滅予想市から、【誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活力と優しさがあふれるまち】にする意思があるならば、竹原市役所の各組織が、居住住民の要望・申し入れに真摯に積極的に対応・活動し、居住住民から感謝されるようにならなければ、基本構想も、居住住民の協力も得られず、【絵に描いた餅】となる。</p>	<p>将来像の実現など、総合計画の推進にあたっては、行政サービスの質的な向上などの行政運営の見直しに継続的に取り組むとともに、対話を重視して市民との相互理解を深めながら、市民協働を推進することとしています。</p>
	10	<p>目標像④ 地域スポーツコミッションの設立</p> <ul style="list-style-type: none"> *常設の組織であること *スポーツツーリズムの推進・イベントの開催・大会や合宿、キャンプの誘致などスポーツと地域資源を掛け合わせたまちづくり・地域活性化を主要活動。 *自治体、スポーツ団体、民間企業（観光産業・スポーツ産業）等が一体となり組織を形成、または協働して活動。 *特定の大会、イベントの開催及びその付帯事業に特化せず、スポーツによる地域活性化に向けた幅広い活動を行う。 <p>目標像⑤ スポーツ関係者連絡協議会の設置</p> <p>体協をはじめ各学校の指導者やスポーツに関わる個人・団体の関係者並びに介護施設の健康づくり担当者等をメンバーとする。</p> <p>—当地域のスポーツや健康への取組状況、問題点を洗い出し、地域をあげて課題の解消に取り組む。</p>	<p>基本構想では、「将来像2 “文教のまちたけはら”の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち」を掲げ、子供一人一人の個性と能力を伸長できるよう、スポーツなど様々な機会を確保するとともに、市民一人ひとりが快適な生活を営むために、多様な学ぶ機会や個性と能力に応じた活躍の場を地域で提供することに取り組むこととしています。</p> <p>いただいたご意見については、基本計画の策定や今後の具体的な取組にあたって参考にさせていただきます。</p>
	11	<p>「目標像① ○利用しやすい公共交通ネットワークが構築されている。」とあるのは誰にとって利用しやすいのか。現状の交通機関は不便極まりないと感じている。どのように改善するのか、具体策を明記すべきである。</p>	<p>目標像の実現に向けた地域公共交通における取組の方向性については、基本計画において示すこととしております。</p> <p>いただいた御意見については、基本計画の策定や今後の具体的な取組にあたって参考とさせていただきます。</p>

項目	番号	意見の概要	市の考え
将来の人口見通しに関する事	12	<p>平成 22 年は、各種人口推計予測を上回る人口を記録している。これの要因は何か。この計画比プラスは特筆すべき事項であるにも関わらず、第 6 次計画では何も述べられていない。分析結果を公表すべきである。</p> <p>平成 27 年は、予測に対して大幅に下回っている。一過性の要因があれば、徹底的に分析して今回の計画作成に活かすべきである。</p> <p>第 5 次計画において、目標を 27,000 人以上としていたが、結果は 25,800 人と未達成が決定的となっている。第 5 次計画のどこに問題があり未達成となったのかをしっかりと検証した結果を公表すべきである。</p> <p>第 5 次計画の検証がないまま、第 6 次計画の 21,000 人を決定したのであれば、当然ながら達成は非常に困難と思われる。</p>	<p>本市の人口減少は、高齢化と少子化による自然減の幅の拡大と、高等教育機関の有無・産業構造・近隣市町を含めた立地条件など、様々な要因が複層的に影響した社会減の幅の拡大によるものと考えております。</p> <p>このため、基本構想では、本市がこれまでも取り組んできた「住みやすさ」、「暮らしやすさ」に磨きをかけ、さらに向上することにより、本格的な人口減少が進展する中においても、持続可能な都市となれるよう、「生まれて良かった、住んで良かった、帰ってきたい、住んでみたい」と思える元気な竹原市の実現に向けて、まちづくりを進めることとしています。</p> <p>また、高等教育機関の有無・産業構造・近隣市町を含めた立地条件など、複層的な要因を踏まえ、今後策定する基本計画において施策の方向性を検討していきたいと考えています。</p>
	13	<p>P 14 には「推計結果を踏まえ、将来的な社会増減の均衡（社会増減が 0）を目指しつつ、人口減少を抑制することを目標とし、将来都市像の実現に向けて推進する各種施策の実施効果により、2028 年の人口を 21,000 人と想定します。」とあるが、施策の内容と効果の概要を明記して、人口目標を「想定」ではなく「設定」とし計画達成意欲を示すべきである。</p> <p>以前、「電源開発の工事のため約 1,500 人の労働者が関わっており、その家族を含めた人々の一部が竹原近隣に居住している」と聞いた。2020 年の工事終了後、2021 年以降は大幅に人口減少となるはずであるが、この人口予測・計画でいいのか。</p>	<p>持続可能な都市の実現にあたっては、将来的には社会増減の均衡（社会増減が 0）を目指しつつ、本格的な人口減少が進展する厳しい状況において、人口の減少幅を抑制していくことが重要であると考えており、基本構想では、将来人口推計の減少幅を抑制することを、人口面の目標として掲げています。</p> <p>また、将来的な社会増減の均衡を見据えて、10 年後の人口を 21,000 人と想定したところであり、将来都市像の実現に向けた施策、事業を実施するにあたっては、この想定した人口を踏まえて検討することとしています。</p>

項目	番号	意見の概要	市の考え
具体的な施策に関する事	14	<p>現在廃校になってしまった吉名小学校を「大人の学びの場」として利用したらどうか。</p> <p>現在、「認知症カフェ」は開設されているが、ほとんどの市民が興味を示すが、通うまでに躊躇するケースがほとんどである。</p> <p>「認知症カフェ」や「介護予防教室」など「シニア就労支援事業」「シニア交通安全教室」「ボランティア教室」など関連する事業を一か所にまとめて実施することで、相談しやすくなる環境を整えるべきである。気軽に足を運べて気軽に相談出来て楽しく居心地の良い空間が、生きがい発掘の場所につながると思う。</p>	<p>基本構想において、「将来像3 誰もがいきいきと自分らしく輝く活力と優しさがあふれるまち【活力】」を掲げ、市民、医療・福祉事業者との連携をさらに強化することにより、一人一人が健やかで安心して暮らし続けられるよう取り組むこととしています。</p> <p>いただいた御意見につきましては、今後の具体的な取組にあたって参考とさせていただきます。</p>
	15	<p>防災の観点から、活断層上に建設されている竹原中学校は早期に移転すべきである。今後の小中一貫校への転換においても、現学校敷地は、候補地から外すべきである。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の具体的な取組にあたって参考とさせていただきます。</p>
	16	<p>自然資源の活用において、重視すべき点は「海または海辺」と考える。海を軸としたアクティビティ（ゾーン）の充実と、海岸線を生かした店舗や住宅の開発がキーであり、自然公園法に縛られない柔軟な対応が必要と考える。</p>	<p>基本構想では、「将来像1 自然・歴史・文化に生まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち【個性】」を掲げ、自然を地域資源と捉え、大切に守りながら、活かすことで、人々を惹きつけ、多様な交流による賑わいの創出を図ることとしております。</p> <p>いただいた御意見については、今後の具体的な取組にあたって参考とさせていただきます。</p>
	17	<p>「利用しやすい公共交通ネットワークが構築されている」とあるが、個人で車移動ができない立場の方を対象に、再考する必要があると考える。</p> <p>ライドシェアやオンデマンド配車サービスなどの研究と導入が、暮らしやすさに直結すると考える。</p>	<p>基本構想では、「将来像1 自然・歴史・文化に生まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち【個性】」を掲げ、地域公共交通と連携したコンパクトな市街地とネットワーク形成に取り組む、コンパクトで住みやすい都市の実現を目指すこととしています。</p> <p>いただいた御意見については、基本計画の策定や今後の具体的な取組にあたって参考にさせていただきます。</p>
	18	<p>教育分野に通じる資産として「芸術」を重視すべきと考える。</p> <p>現状以上の充実した「美術館」や「（芸術）ホール」を充実すべきである。尾道の百島など前衛的なアート集団が活躍しているが、竹原市の雰囲気から、前衛的なものは馴染まないと感じる。より具象的で、現実主義（リアリズム）の芸術が集う場所として注力すべきであり、「～ぶらまちアート～ 歴史・町・広島竹原芸術祭」のように、竹原に馴染まないものは再考すべきである。</p>	<p>基本構想では、「将来像2 “文教のまちたけはら”の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち【人材】」を掲げ、子供一人ひとりの個性と能力を伸ばせるよう、芸術も含めた様々な機会を確保するとともに、市民一人ひとりが快適な生活を営むために、多様な学ぶ機会や個性と能力に応じた活躍の場を地域で提供することに取り組むこととしています。</p> <p>いただいた御意見については、基本計画の策定や今後の具体的な取組にあたって参考にさせていただきます。</p>

項目	番号	意見の概要	市の考え
具体的な施策に関する事	19	<p>市立体育館の交通アクセス、使用環境の整備を行い、市民の健康増進を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バンブー体育館にJR駅を新設 2. 体育館に冷房設備を設置 	<p>いただいた御意見については、基本計画の策定や今後の具体的な取組にあたって参考にさせていただきます。</p>
	20	<p>有力産業がなく労働者を受け入れるキャパがないのであれば、例えば呉市、東広島市、三原市のベッドタウンとして都市整備し、夜間人口の増加を目指すのも一つの策と思える。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の具体的な取組にあたって参考とさせていただきます。</p>
	21	<p>竹原市は高齢化率が高く、病院・開業医数も多く、老人福祉施設が人口の割には整備されている。また、保育所の待機問題もありません。「日本一高齢者・子育て世代が暮らしやすい街」との積極的な施策が計画されるべきである。</p> <p>(1) 活かすべき竹原市の特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子育て世代が暮らしやすい街 待機児童問題がなく、スーパーも多く、治安も良い ② 人口3万人弱の街に県立高校が2校ある 遠距離通学から解放され、通学費がかからない ③ 病院・開業医数が多い、また、老人福祉施設も多く、入居待ちも大都市に比べ少ない <p>(2) 竹原地域社会福祉法人協議会の取組</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 小・中学生が市内の県立高校に進学し、大学卒業後に竹原に帰ってくる長期的取り組み ② 挨拶運動参加を通じて、社会福祉への理解を深める ③ 大学等との連携協定を締結し生徒を支援 <p>上記取り組みを通じて、街のイメージアップを図り、これらの子育て世代を竹原に呼べるよう積極的に活動している。子育て家族、特別養護老人ホーム入居希望者が竹原市に居住し、保育所・介護施設を就労先として選定してもらえるよう、保育士・介護士の就労環境の改善を図り、人口減少を少しでも止められればと思い地道に活動している。</p> <p>人口減少対策の即効策はなく、全国のどの自治体の計画を見ても「人口対策・地域活性化対策」を第一に取り上げている。コンパクトにまとまり、山と海の幸がふんだんにあり、歴史のある街竹原は、子育て世代・高齢者にとって住みやすい環境である。</p>	<p>基本構想では、本市がこれまでも取り組んできた「住みやすさ」、 「暮らしやすさ」に磨きをかけ、さらに向上することにより、基本理念で掲げるまちづくりを推進したいと考えており、将来都市像についてはこうした考え方などに基づいて設定することとしています。</p> <p>また、「将来像2 “文教のまちたけはら”の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち【人材】」を掲げ、妊娠期からの切れ目のない子育て支援を充実するとともに、「将来像3 誰もがいきいきと自分らしく輝く活力と優しさがあふれるまち【活力】」を掲げ、誰もが健やかで安心して暮らし続けられるよう取り組むこととしています。</p> <p>いただいた御意見については、基本計画の策定や今後の具体的な取組にあたって参考にさせていただきます。</p>

項目	番号	意見の概要	市の考え
その他	22	この度の災害に対して、どれだけの職員の方が、無給で奉仕したのか。このような場面に接した時こそ、職員としての価値が試されると考える。	国や県など関係機関と連携を図りながら、引き続き災害からの早期復旧・復興に向け、全力で取り組んでまいります。
	23	全人口における割合は少ないが、市外から通勤する竹原市職員については、今後、市内在住と改めるべきである。職場が市内にあり、安定的に収入が得られる職員は、基本理念や将来都市像の具現者であり、彼らが、市外に住んでいるにも関わらず、市の人口減少を唱えても、説得力に欠ける。	職員の市外への居住については、それぞれ個別の事情によるものと考えていますが、引き続き職員の市内居住を呼びかけてまいります。